

鉄道一般

車両

軌道

構造物

防災

電力

信号通信
情報

材料

環境

人間科学

浮上式鉄道

国際鉄道連合(UIC)の最近の活動

国際鉄道連合 (UIC (註1 参照)) の体制, 技術・研究プラットフォーム, プロジェクトに関する活動のほか, 最近の話題としてUICの標準化に対する取り組み, UIC 鉄道研究革新賞について, UICに出向している立場から最新の状況を紹介します。



太田 勝
Masaru Ohta
総務部
主査
(UIC出向)

UICとは

UICは各国の国有鉄道/旧国有鉄道を主な会員として組織された鉄道の国際機関です。日本に限らず大方の国では幹線鉄道は国の運営でしたので, UICも設立同時は国家機関連合の色彩が強かったようですが, 今では民間の組織になり, 鉄道事業会社・鉄道管理会社の業界団体という一面もあります。現在は5つの大陸を含む, 世界から約200の会社・団体が加盟しています(図1)¹⁾。

会員種別は3つあり, 正会員 (Active Member) 約80団体, 準会員 (Associate Member) 約80団体, 賛助会員 (Affiliate Member) 約40団体という内訳になっています。日本は1922年のUIC設立時からの会員で, 当時は鉄道省として加盟していました。現在, 正会員としてJR東日本, 準会員としてJR東海, JR西日本, JR九州, JR貨物, 賛助会員と

して鉄道総研が加盟して活動しています。昨年UICは設立90周年を迎えました。

UIC本部はフランス, パリの15区, エッフェル塔を望む場所に位置し(図2), 欧州を中心にアフリカ, アジアからもスタッフが集まっています。また, ブリュッセル, モスクワ, ニューデリーにもスタッフを常駐させています。

UICの使命は, 世界レベルでの鉄道を推進し, 輸送の課題に立ち向かい, 持続可能な発展を目指すことで, 目標として(1)会員相互の情報の共有を促進, (2)メンバーの間でのベストプラクティスの共有を促進, (3)新規事業や新たな活動分野を開発するための支援, (4)技術的および環境的パフォーマンスを改善するための新しい方法の提案, (5)相互運用性を促進し, 鉄道(他の交通機関との共通規格を含む)のための新しい国際規格の策定, (6)人材育成(高速鉄道, 安全, セキュリティ, e-ビジネス, ...)などをあげています。

UICの現在とその活動

本稿執筆現在UICの会長は, JR東日本の清野会長が, 前任の石田会長(前JR東日本副会長)から引き継ぎ勤めら

註1 UIC

正式名称はフランス語で Union Internationale des Chemins de Fer, 略称でフランス語の頭文字をとって UIC を使っています。英語では International Union of Railways, 日本語で国際鉄道連合となります。

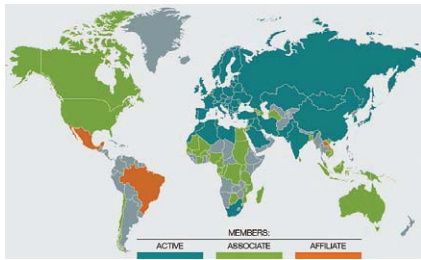


図1 UIC会員¹⁾



図2 UIC本部フランス パリ15区

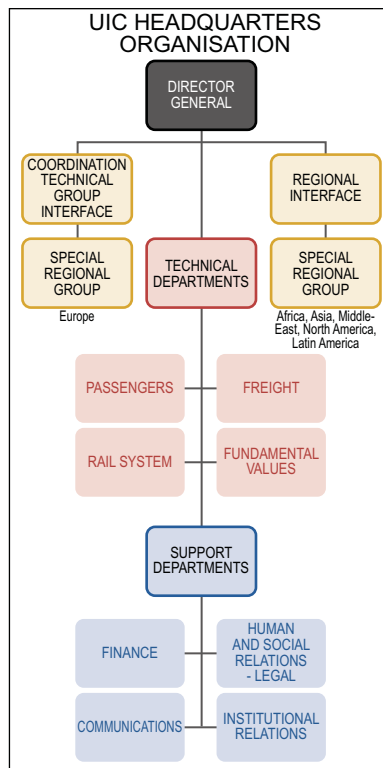


図3 UIC本部組織

UIC TECHNICAL COOPERATION BODIES			
PASSENGERS	FREIGHT	RAIL SYSTEM	FUNDAMENTAL VALUES
CER / UIC High Level Passenger Meeting	CER / UIC High Level Freight Meeting	UIC Rail System Forum	
UIC Passenger Forum	UIC Freight Forum		
High Speed Plenary Committee	CTG Combined Transport Group with INTERUNIT (UIRR)	Track and Structures Sector	Environment, Energy and Sustainability Platform
Station Managers Global Group -SMGG	Special Groups Wagonload -Xrail -IFC	Train Dynamics and Running Gear Sector	Safety Platform
Commercial Group	Special Group RAILDATA	Operations and Control, Command and Signalling Sector	Security Platform
Technical Group	TAF TSI -Deployment -CCG	Energy Management Sector	Expertise Development Platform
	Use of Wagons -RIV -GCU Joint Committee (UIP, ERFA)	Rolling Stock Sector	International Railway Research Board (IRRB)
	GTE Intercontinental Freight Corridors		Research Coordination Group (RCG)

図4 UIC技術作業部会

れており、任期は2012年12月までとなっています。会員のコンセンサスが得られ、本号が出版される時にはヤクニンYakunin氏（ロシア鉄道社長）が新会長に選出されていると思います。また常勤の理事長はルビヌーLubinoux氏（元フランス国鉄SNCF）が勤めており、実務の最高責任者となっています。

UICには旅客Passangers、貨物Freight、鉄道システムRail Syatem、基礎Fundamental Valuesという4つの技術部門があり（図3）、前者3つにはフォーラム、横断的な事柄を扱う基礎には4つのプラットフォームという技術作業部会が設けられています。基礎はさらに2つの研究部会、国際鉄道研究委員会IRRB（International Railway Research Board）と、研究調整グループRCGを所管しています（図4）。

現在、UICの技術作業部会では180ものプロジェクトを推進しています。代表的なプロジェクトは、欧州列車制御システムERTMS、鉄道無線通信プラットフォームGSM-R、軌道システム刷新プロジェクトINNOTRACK等

で、UICが他機関の支援も受けながら推進しています。

UIC標準化と鉄道研究革新賞

以前は欧州国際直通列車といっても、実際に直通するのは客車や貨車で、国境で機関車を付け替えていました。UICリーフレットはこの当時から使われてきた標準で、長い歴史がある反面、現在の高速列車の固定編成車両からみると、前時代的なものと言わざるを得ません。しかし、UICリーフレットはUICの貴重な財産と考える鉄道事業者も多く、欧州を中心にリーフレットの改定・メンテナンスを求める声も大きいのが現状です。また、リーフレットを世界に広めようという動きもあります。

1つにはISOと協定を結び、鉄道事業者の業界団体がもつ鉄道標準、UICリーフレットを国際規格へアップグレードしようとする取り組みがあります。

標準化については2011年に標準化作業グループSWGを立ち上げ活動してきました。また、2013年には標準化プラットフォームを新設し活動を拡

大する計画ですが、進路には解決しなければならない問題が多く存在します。

UICでは鉄道の発展のためには優秀な人材が必要であると考え、人材育成プログラムを遂行しています。世界高速鉄道会議2012の際には、学生プログラムAwards for Student Competitionを設け、優秀論文の学生を会議に招待し、将来の鉄道の発展の寄与に期待する取り組みを行いました。

また、ロシア鉄道研究所VNIIZhT、ラピドスLapidus氏が議長を務める国際鉄道研究委員会IRRBがその活動の一環として、今年、UIC鉄道研究革新賞Global Rail Research & Innovation Awardを設置しました。この賞には、24カ国から46件のエントリーがあり、12月のUIC創立90周年記念総会で賞の授与が行われました。この審査作業には鉄道総研も協力しています。[RRR]

文献

- 1) UIC : Activities Report 2010, 2011年